

令和 6 年度こどもデータ連携実証事業（実施報告）

本市が令和 5 年度に引き続き令和 6 年度もこども家庭庁より採択を受けておりました標記事業の実施結果についてご報告いたします。

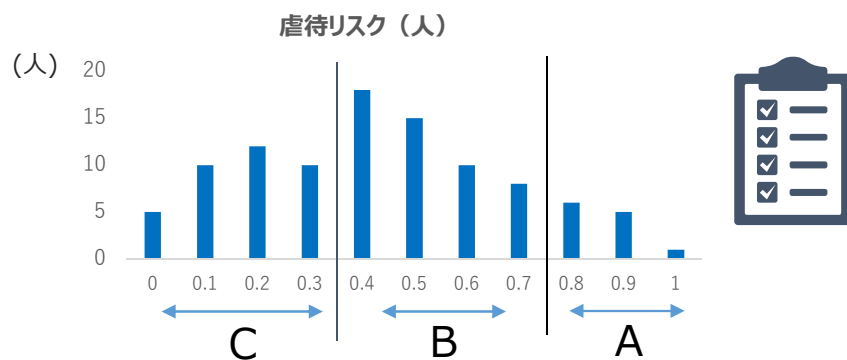
■ 事業の趣旨

子どもの貧困を始めとした、虐待、不登校、ヤングケアラー、発達障がい等のリスクについて、行政が検知していない潜在的风险を持った子どもを早期に発見するため、行政及び学校が保有するデータを連携・分析し、プッシュ型の支援につなげる。

■ 困難の類型 ： 貧困 虐待 不登校 ヤングケアラー 貧困 産後うつ 発達障がい

■ 対象児童 ： 0 歳～15 歳

①システムによる分析 (一次絞り込み)



■リスク分析

- 各種データを連携させ、世帯ごとに子どもがさらされている可能性のある困難を分析する。

■リスクランクの可視化

- 個々の子ども・母親について、困難に陥っている可能性が高い順に「A」「B」「C」の判定を行い、システムにおいてリスクランクを可視化する。

②人の目による絞り込み (二次絞り込み)



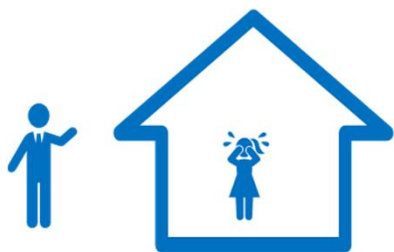
■学校を通した絞り込み

- 対象者が就学児の場合、小中学校（モデル校5校）において、学級担任にヒアリングを行い、リスクの兆候について把握する。

■健診を通した絞り込み

- 対象者が乳幼児の場合、健診の機会を活用し、母親へのヒアリングを行う。（健診に来なかった場合は別途訪問等。）

③アプローチ・支援への接続



■ アプローチ・支援

- こども家庭サポートセンター・おやこ保健福祉課の保健師が家庭にアプローチし、支援方策への接続を行う。

④結果の評価



■ 評価

- システム分析の正確性について評価する。
- 実施した支援策について、その結果について評価する。
- 実施結果については、分析モデルの再学習に活用。

利用しているデータ項目 ①

データ	データ概要	管理方法	データ保有・管理主体	
住基情報	市民の「氏名」「住所」「年齢」「性別」等の基礎情報	システム	市民課	延岡市 (市長部局)
生活保護受給状況	生活保護受給者に係る情報	システム	生活福祉課	
自立支援相談情報	生活保護受給や自立支援に係る相談を行った者の情報	Excel		
保育施設入所状況	保育施設入所者に係る「氏名」等の基礎情報	システム	こども保育課	
保育料納付状況	保育料の納付額や滞納状況に係る情報	システム		
要保護児童対策地域協議会への登録情報	要保護児童及び要支援児童に係る情報	Excel	こども家庭サポートセンター	
予防接種状況	予防接種の受診情報	システム	地域医療政策課	
障がい児情報	こどもの障がい者手帳（身体、療育、精神）の交付状況等に係る情報	システム	障がい福祉課	
障がい者情報	こどもと同一世帯の者の障がい者手帳（身体、療育、精神）の交付状況等に係る情報	システム		

利用しているデータ項目 ②

データ	データ概要	管理方法	データ保有・管理主体	
妊娠届出情報	妊娠届出を行った者の情報	システム	おやこ保健福祉課	延岡市 (市長部局)
妊婦健診情報	妊婦に係る健診結果の情報	システム		
産婦健診情報	産婦に係る健診結果の情報（EPDS含む）	システム		
乳児健診情報	乳児期に行う健診結果の情報	システム		
乳幼児健診情報（1歳6ヶ月）	1歳6ヶ月期に行う健診結果の情報	システム		
乳幼児健診情報（3歳6ヶ月）	3歳6ヶ月期に行う健診結果の情報	システム		
7ヶ月児健康相談情報	7ヶ月期に行う健康相談の情報	システム		
2歳6ヶ月歯科健診情報	2歳6ヶ月期に行う歯科健診結果の情報	システム		
児童手当受給状況	児童手当の受給状況に係る情報	システム		
児童扶養手当受給状況	児童扶養手当の受給状況に係る情報	システム		
子ども医療費助成受給状況	子ども医療費の受給状況に係る情報	システム		
ひとり親家庭医療費助成受給状況	ひとり親家庭医療費助成の受給状況に係る情報	システム		
フードバンク利用状況	食料品の提供支援を受けている家庭の情報	Excel		
子育て世帯生活支援特別給付金受給情報	子育て世帯生活支援特別給付金の受給状況に係る情報	システム		
支援対象児童等見守り強化事業の対象者情報	外部団体によるこどもの家庭訪問や食料品の支給状況に係る情報 ※外部団体からおやこ保健福祉課に提出	Excel・紙		

利用しているデータ項目 ③

データ	データ概要	管理方法	データ保有・管理主体	
就学援助受給状況	就学援助（物品購入等）に係る受給情報	システム	学校教育課	延岡市 （教育委員会）
学校出席状況、遅刻・早退状況情報	各学校における出席等の情報	システム	小中学校	
学校健診・歯科健診情報	こどもの健診受診及び結果に係る情報			
保健室来室状況情報	こどもの保健室利用に係る情報			
上下水道料納付状況	上下水道料金の納付に係る情報	システム	業務課	延岡市 （上下水道局）

■ 支援の実施状況

- データ連携によるシステムでのリスク判定を基に、学校ヒアリング等及び家庭訪問を行うことで、学校や市それぞれだけでは十分に検知できなかったリスクについて検知できた。
- 家庭訪問による家庭との関係性づくりができた。また、就園と発達相談を促した家庭については、母親が行動に移す状況の変化が見られた。

今年度、支援したこども・家庭や支援優先度が高いと判定された対象者への支援内容（※代表的なケースを記載）

	ケース 1	ケース 2	ケース 3
判定前の状況	生活保護を受給。ひとり親家庭。 小学生3人きょうだい。 虐待リスクは想定していなかった。	ひとり親家庭。小学生。 学校でも不登校・養育不安のリスクは検知。	5歳児。未就園。 虐待リスクは想定していなかった。
見守り・支援で 確認できた支援 対象の状況	・虐待 ・養育不安	・不登校 ・養育不安 ・こどもの食事の量が多く家計を圧迫	・積極的に就園させる意思がない ・発達障がい
支援内容 ・状況	・保健師が家庭訪問。 ・相談窓口（こども家庭サポートセンター）のチラシを渡した。	・保健師が家庭訪問。 ・相談窓口（こども家庭サポートセンター）のチラシを渡した。 ・フードバンク制度の案内をした。	・未就園を理由に保健師が家庭訪問。 ・就園と発達相談を促した。
支援対象の 状況・変化	まだ、支援対象に大きな変化はないが、今後もアプローチするための関係性をつくることができた。	まだ、支援対象に大きな変化はないが、今後もアプローチするための関係性をつくることができた。	就園先を探している。また、発達相談も行った。
こどもデータ連携による効果／ 示唆・気づき	学校ヒアリングにより、きょうだいともにリスクが高いことが判明し、アプローチの優先度が高まった。	不登校児であることから、学校ヒアリングだけでは家庭の様子が十分に把握できなかった。訪問することで、家計の状況まで把握することができた。	未就園は把握できていたが、発達障がいのリスクを改めて認識したことで、発達相談につなげることができた。